

事 項	りんご苦土欠乏症の新しい症状		
ね ら い	<p>現在、各地のりんご園で苦土欠乏症が散見されるようになった。苦土欠乏症による新梢葉のクロロシス、ネクロシス及び落葉は、最も葉齢の古い基部葉から発生し、頂部葉へと規則正しく進行するとされていた。しかし、必ずしもこれらの症状が基部葉から発生しないこともあるので、苦土欠乏症診断上の参考に供する。</p>		
指 導	<p>1 苦土欠乏の発生葉位 平成11年、りんご試験場内において、「ふじ」の新梢に苦土欠乏症、すなわち、葉のクロロシス、ネクロシス及び落葉が発生した。しかし、症状が発生した最下位の葉位は基部葉から数えて3～6枚目の葉であり、それより下位の葉には症状が発生していなかった。この症状は日を経る毎に進行し、発生部位は新梢頂部の方向に移行した。しかし、硫酸マグネシウムを散布すると、散布後の新たな発生はほとんどみられなかった。</p>		
参 考 内 容	<p>2 苦土欠乏症診断上の注意点 苦土欠乏症は新梢基部葉から発生することが多い。しかし、症状が基部葉より上位の葉から発生することもあるので、発生葉位にこだわらず、葉の症状（葉脈間または葉縁に発生するクロロシス、ネクロシス）及び落葉の発生状況から診断する。</p>		
期待される効果	苦土欠乏症を正確に診断できる。		
利用上の注意事項	苦土欠乏症の発生樹に対する対策は従来と同じ（苦土肥料の施用及び硫酸マグネシウムの葉面散布）である。		
担 当	青森県りんご試験場 病虫肥料部	対 象 地 域	県下全域
発 表 文 献 等			

【根拠となった主要な試験結果】

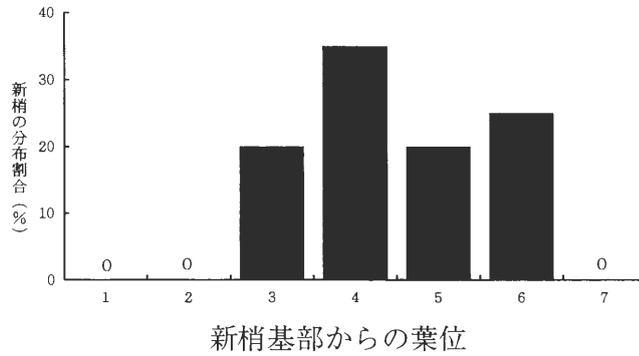


図1 症状が発生した最下位の葉位 (平成11年 青森りんご試)
注) 新梢20本を調査

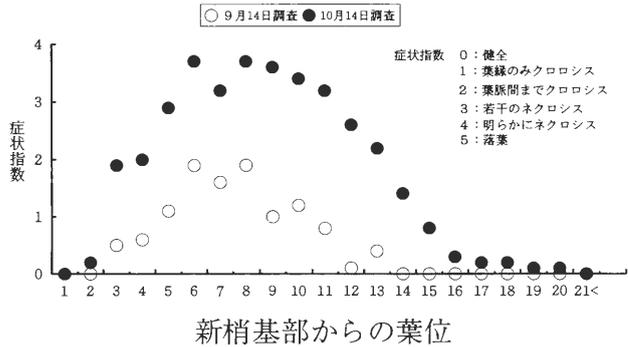
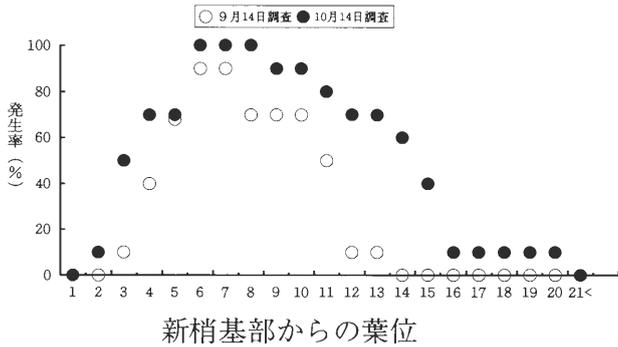


図2 葉位別発生率の推移 (平成11年 青森りんご試)
注) 新梢20本を調査

図3 葉位別症状指数の推移 (平成11年 青森りんご試)
注) 新梢10本の平均値

表1 硫酸マグネシウム散布と苦土欠乏葉発生状況
(平成11年 青森りんご試)

区	調査月日及び葉の発生率 (%)			
	9/14	9/24	9/28	10/14
無散布区	12.7	16.7	17.4	22.9
散布区	10.7	12.6	12.6	13.6

注) 散布区は水10ℓ当たり150gの硫酸マグネシウム(成分20%)を9月22日、29日及び10月6日の3回散布